

保育あき友

Vol.68

2025.12.26

題字：故 小畑勇二郎 書（秋田県知事）

瓦版



「凡事徹底」と「継続は力なり」

秋田県保育協議会
副会長 長浜 中

大潟こども園に勤務して2年目を迎えました。11年前に大潟小学校に校長としてお世話になりました。その際「大潟村連携教育（保育園、幼稚園、小・中学校）」が動き出しそれぞれの園・校種で卒園・卒業するまでに育ててほしい姿を設定しました。そして昨年4月から大潟こども園に勤務。偶然にも幼保小の架け橋期プログラムのスタートライン、何か不思議な縁を感じました。

私自身は講師時代に中学校と高校の教員、採用されてからは中学校の教員、県教委、校長をそれぞれ10年前後務めてきました。「こども園に勤務すれば0歳から18歳までの子どもの教育・保育に関わることになる。」そういった思いから大潟こども園に勤務することを決めました。「私が園長として子どもたちや職員にできることは何だろうか？」を考えながら過ごす毎日ですが、少しでも実践していることを紹介したいと思います。

その中の一つが毎朝のあいさつ運動です。「え、小さな子どもたちにあいさつを求めて意味があるの？できるの？」と思われる方もいると思いますがこれが実に面白い。毎朝、私から「〇〇ちゃん、おはよう！」と言うと直ぐに返してくれる子どももいれば恥ずかしかったり、言葉に表せなかったりするなど半年間近く反応がない子どもが突然「園長先生、おはよう、おはようございます」を言ってくれます。保護者が背中を押してくれるのも大きな力になっています。年長さんのクラスでは子ども同士が「おはよう」を言い合っている姿も多々見られます。そんな姿が嬉しくつつい笑顔になる私です。

職員には「村の子どもたちはこども園から中学校を卒業するまで一緒。遊びの中で一人一人の成長を大切にしながら子ども同士の人間関係づくりを大切にしてほしい。」と伝えています。あたりまえのことを続けることがやがて大きな力になる。今後も大切にしたいと思っています。



第 73 回北海道・東北ブロック保育研究大会

並びに各研修会 参加者からの感想



「北海道・東北ブロック保育研究大会の発表を終えて」

轟保育園

主任保育士 山谷 裕紀子

自園では、「畑が持つ子どもの心を育てる力」を研究の視点に「行きたくなる・なる・キッズファーム ～土に触れ、人と関わる自然体験の実践を通して～」というテーマのもと、研究に取り組んできました。

これまでも、野外活動を軸とした保育を行ってきましたが、0 から 5 歳児までの全園児が自然の中で様々なことを経験しながら遊んで育つ子どもたちの姿と、保育者の関わりや環境構成について研究し、資料にまとめることの難しさを感じました。

園内研修で協議を重ね、キッズファーム(畑活動)での子どもの育ちだけでなく季節ごとの活動や行事、保護者支援など様々な取り組みについて共通理解を図りながら子ども理解と保育の改善に努めてきました。試行錯誤しながらも職員それぞれの得意分野を活かして多様な視点から関わる事ができたからこそ検証できたことが多く、研究を通して改めて現場にたつ職員一人一人の力が大きかったと実感しました。

今後も、土に触れ人と関わりながら自然や畑の持つ力に感謝し、遊んで育つ子どもの「わくわく」に一緒に面白がったり喜び合ったりできる保育者でありたいと思います。

「北海道・東北ブロック保育研究大会を終えて」



大曲南保育園

園長補佐兼主任保育士 山信田 和浩

保育士 鈴木 牧子

北海道・東北ブロック保育研究大会において発表の機会をいただき、大変貴重な経験となりました。「子どもも保育者もいきいきと輝く姿を目指して ～合言葉 安心・受け止め・タイミング～」

をテーマに、これまで園で積み重ねてきた実践をお伝えしましたが、大勢の前で話す緊張感の中にも、日々の保育を振り返る大切さを改めて感じる時間となりました。

発表後には助言者の先生方や参加者の皆様から温かいお言葉をいただき、発表内容だけでなく、現場で大切にしてきた姿勢そのものを評価していただけたことに心から嬉しさを感じました。

園に戻ってからは職員全員でその喜びを共有し、これまでの歩みを確かめ合う良い機会ともなりました。日々子どもたちと向き合いながら試行錯誤してきた工夫や思いが、こうして形になったことにも誇りを感じています。さらに、指導助言でいただいた課題に向かい、今年度の園内研修や日々の保育実践に活かそうとする職員のモチベーションになっていることも実感しています。

今回の経験を糧に、これからも子どもたち一人一人が安心して自分らしさを発揮でき、保育者も共に成長できる園づくりを目指して実践を深めていきたいと思えます。

「第73回北海道・東北ブロック

保育研究大会に参加して」



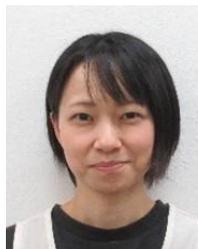
勢至保育園

副主任保育士 戸蒔 美貴子

今回の研究大会で発表するにあたり、給食参観時、保護者との話の中で「保育園ではなんでも食べるのに自宅では食べようとはしない。」との声が多く聞かれたため、食育目標でもある「楽しく食べる子どもに」を合言葉に保護者や子どもたちにどのように働きかけていくか職員間で話し合い取り組んでいくことにしました。とはいえ、コロナ禍で楽しく食事ができるのか不安な中での研究でした。当日の発表では、会場から子ども達の写真や動画の表情を見て笑いが起こり、発表後にはドキュメンテーションの作成の仕方や行事の時間配分などについて質問が多く寄せられ、たくさんの方々に興味を持っていただけたように感じました。助言の先生方からは、今後の研究や実践のヒントをいただきました。家庭で味わう食の楽しさを引き出す働きかけを再検討し、さらに地産地消への取り組みを高めていきたいと思えます。

これまでこの研究にご指導、ご協力いただいた先生方に心よりお礼申し上げます。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

「木に親しみ、学ぶ、木育体験」の研修を終えて



大館乳児保育園

保育士 佐々木 美里

木育とは木と触れ合い、木に学び、木と生きることを通して人と森との関わりを主体的に考える豊かな心を育む教育活動であること、木の玩具や大型遊具で遊ぶことで ①手触り、温もり、嗅覚、聴覚、視覚などの五感の発達 ②リラックス効果 ③つかむ、握る、ひねる、まわすなどの手指発達 ④創造性、想像力を育む ⑤積み木を使った空間認識能力向上 ⑥協調性を育むなどたくさんの効果が得られることが分かりました。

熊対策などで戸外での遊びができませんが、由利本荘市にある『鳥海山 木のおもちゃ館』は子どもから大人まで楽しめる施設となっており、『もりのあそびばフロア』は、まるで戸外で遊んでいるかのような雰囲気の中で木の温もりを存分に感じられる場所でした。私自身、様々な玩具に触れて遊ぶことで実感し、童心にかえり癒される時間となりました。園でも積み木などの木の玩具に触れて遊ぶ機会を設けていきたいです。また、大館にもニプロハチ公ドームに隣接する『子どもの遊び場』でも木育体験ができるので、保護者にもすすめて子どもたちの発達が豊かになってくれたらと思います。

貴重で楽しい研修をさせていただきありがとうございました。

「木に親しみ、学ぶ、木育体験」の研修に参加して



こどものくに保育園

保育士 高橋 れいな

第 34 次保育士等研修に参加し、鳥海山木のおもちゃ館に伺いました。木育体験のテーマのもと館長さんのお話を聞くと、日本は森林率が 68.4%で世界では 3 位と非常に高く、秋田県も世界で 14 位という高い順位だと知り、あらためて私たちの住む秋田県は豊かな自然が魅力なのだと感じました。

旧鮎川小学校の木造校舎は教室ごとに遊びが分かれていて乳幼児から大人まで楽しめる施設でした。体育館にある「もりのあそびば」は秋田の木があふれる世界になっていて木のどんぐりプー

ルや、タワー、様々な木の玩具があり私も「次はこれをしてみよう」「これはどんな玩具だろう」とワクワクした気持ちが沸き起こりたくさん触れて楽しみました。

初めてお会いした他園の保育士の方と一緒に過ごしたのですが、木の落ち着いた雰囲気の中で自然と交流を深めることができとても有意義な時間でした。自園にも秋田杉で作られた木の積み木があります。日々の保育にどんどん取り入れて子どもたちと一緒に楽しみたいと思います。

「第34次保育士等研修会に参加して」



みわこども園
保育教諭 佐藤 未希

研修に参加し、目的である保育に携わる人としての専門性や人間性を高めることに重点を置き、保育だけにとどまらずより外に目を向け保育に携わる人としての資質向上を目指すことに近づけたと感じます。子どもたちにとって保育者や保護者は身近な大人であり、影響力も大きいと再確認しました。そんな大人たちがどんな環境を与えていくかで子どもたちの人生の根っことなり、発達のステップを踏むことができると学びました。

また、愛着障害などが増えてきている中で保育者は満たされるべき甘えを見極め、保護者へもその重要性を伝えていかなければならないと感じました。私はまだ経験も知識も浅いですが、先輩保育者と考えを伝え合い一人一人にとって適切な保育・支援ができるよう努めたいと強く感じた研修でした。

架け橋コーディネーターの山本先生のお話をお聞きし、「架け橋プログラム」については子どもを共に育てるという意識が大切だと強く感じました。今後保育を組み立てる際には育ちのつながりをより意識し、研修で学んだことを活かしていきたいと思います。

常任委員会並びに各部会報告

令和7年度 第2回常任委員会報告

【日 時】 令和7年10月20日（月） 13：30～17：00

【場 所】 秋田県社会福祉会館9階 第3会議室

【参加者】 会長・副会長、各部長、中央関連委員、事務局

【会長挨拶】 想定を超える熊被害についての注意喚起

○業務災害総合保険の説明（株）キッズサポートインシュアランス

全私保連の保険制度の現状と今後の活動方針、AIG 保険商品の詳細、福利厚生保険制度の概要と特徴等の説明。

【協議事項】

(1) 死亡見舞金の請求に関する審議

(2) 令和7年度事業の進捗状況、活動報告・事業について

総務部（共創プロジェクト）、広報部、研修部、研究大会部、運営研究部（公定価格検討委員会）、青年部、日本保育協会、全国私立保育連盟（青年会議・調査部）

●主な協議について

・保育研究大会について

・総会の開催形式に関する提案

(3) その他

・「こども」表記の判断基準

・こども未来議連 懇談会の今後の予定

・県社協との研修

総 務 部

【実施した部会】

○総務部 第2回

日 時：令和7年10月3日（金）13：30～16：00

場 所：保育協議会 会議室

内 容：総務部職務分掌の共有、共創プロジェクト、令和7年度予算執行状況の確認、第2回常任委員会の準備及びスケジュール、地域交流助成、災害互助制度の状況確認、部内情報共有体制、その他

○共創プロジェクト

聖園学園短期大学様×聖霊女子短期大学 連携事業（園長シンポジウム・保育研究発表の展開）
聖霊女子短大での保育研究発表・園長シンポジウムの開催

日 時：令和7年9月18日（木）

13：05～ 保育研究発表（轟保育園）会場：聖霊女子短期大学様内

14：00～ 園長シンポジウム（轟保育園 園長 九嶋 洋子

さんない保育園 園長 畠山 尚宏）

【今後の部会予定】

第3回

日 時：令和8年1月上旬か2月下旬 場所：保育協議会 会議室

内 容：総会開催の準備等

【部からのメッセージ】

初年度の一区切りとして年末を迎えようとしています。所管する各事業に追われる毎日ではありましたが、総務部としてのこれまでの担いは当然大事にしながら、各事業は秋田県として果敢に挑まなければいけない部分だと認識しています。

会員の皆様のご理解と部全体で力を合わせて組織方針が円満に遂行されるよう努めてまいります。令和8年もよろしくお願いいたします。

横手市 明照保育園
（総務部長 津村 侑弥）

県保協HPから各申請書がダウンロードができます！
～詳細は総会資料かホームページをご覧ください～

災害互助制度について

会員園がお互いに助け合いの精神によって災害互助制度を設け、保育活動の充実に寄与することを目的としています。園内外の保育活動中はもちろんのこと、園児の登降園中や職員の通勤途中の事故に対し、被災者にお見舞金を給付する制度です。

死亡見舞金請求は死亡後1ヶ月以内、傷害治療見舞金請求は治療完了後1ヶ月以内、自然災害見舞金請求は災害発生後1ヶ月以内か災害復旧後1ヶ月以内となっております。

（基本1ヶ月以内）

これからも皆さまにとって活用しやすい制度を目指してまいりますので、お気づきの点がありましたら事務局までお寄せください。

地域交流助成事業について

会員園同士が個々の活動を超え、2か所以上の施設が連携して行う保育活動、近隣に交流する保育施設が無い場合であって、会員施設が単独で地域との交流を図るための事業に対し助成するものです。R7年度総会資料申請書に以下の項目を設けましたのでご確認願います。①地域内での教育・保育施設の存在や活動をアピール ②地域との交流（他施設や世代間交流を含む）③幼保小の接続の観点から、同じ小学校に就学する園児の交流を対象とします。申請は事業開始1ヶ月前まで、報告は助成事業完了後1ヶ月以内に本会長あてに提出してください。事業完了後1ヶ月以内に年度末となる場合は、3月20日までの提出となります

災害互助・地域交流活用状況
(R7.11.27更新)

災害互助制度

傷害治療見舞金・・・14件

1級—1件 5級—2件 6級—4件

7級—1件 9級—6件

自然災害見舞金・・・0件

地域交流事業・・・3件

研 修 部

○第6回

日 時：令和7年9月1日（月） 16：00～17：00

場 所：保育協議会 会議室・WEB 併用

内 容：第28回保育カウンセリングセミナーの反省

第34次保育士等研修会③ 「木に親しみ、学ぶ、木育体験」研修会について

令和8年度 北海道・東北ブロック保育協議会保育指導者セミナー講演会講師について

その他

○第7回

日 時：令和7年11月20日（木）

場 所：保育協議会 会議室・WEB 併用

内 容：第34次保育士等研修会③ 「木に親しみ、学ぶ、木育体験」研修会の反省

今年度の反省

その他

○第8回

日 時：令和8年2月（日にち調整中）

場 所：WEB 開催

内 容：令和8年度の研修・役割分担について

その他

【部からのメッセージ】

今年度は新たに木のおもちゃ館で歴史をたどり、実際に「木のぬくもり」を体感しながら、木育を保育現場へという思いを込めた研修会を開催しました。成果と課題を検証しながら次年度へつな

げていきたいと考えております。

次年度の研修は更に保育ニーズを敏感に察知し、現場に生きるよう努めてまいります。

特に第34次（R8は第35次）研修会は、保育士になって間もない先生方が中心の研修会となっております。これからの意欲に繋がる研修になるよう知恵を出し合いながら進めてまいりますので今後とも研修部の活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

由利本荘市 石脇西保育園
（研修部長 能元 こずえ）

研究大会部

【実施した部会】

○第4回

日 時：10月29日（水）13：30～15：00

場 所：WEB開催

内 容：第54回秋田県保育研究大会について

分科会の振り分けについて

今後のスケジュールの確認（全体会を含む）

発表録画について

「教育・保育研究に関わる参考資料について」

評価表について

【今後の部会予定】

○第5回

日 時：1月20日（火）

場 所：保育協議会会議室 WEB併用

内 容：第54回秋田県保育研究大会について

○第54回秋田県保育研究大会実行委員会との打ち合わせ

日 時：2月下旬

場 所：未定

内 容：第54回秋田県保育研究大会について

【部からのメッセージ】

日頃より研究大会部の活動に対しご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

令和8年度、第54回研究大会（仙北地区）は6月11日（木）開催となっております。お忙しい時期ではありますが、ぜひご参加ください。

由利本荘市 本荘中央こども園
（研究大会部長 齋藤 奈緒美）

運営研究部

【実施した部会】

○第6回

日 時：9月16日（火） 13：30～16：00

場 所：保育協議会会議室

内 容：園長セミナーについて

○第7回

日 時：10月9日（木） 14：00～15：30

場 所：保育協議会 会議室・WEB 併用

内 容：園長セミナーについて

業務内容最終確認

【実施した事業】

○園長セミナー（日保協 北海道・東北地区役員研修会）

日 時：10月16日（木） 13：00～17：30

場 所：パーティーギャラリーイヤタカ

内 容：行政説明「保育をめぐる国の動向と課題」

こども家庭庁 成育局保育政策課 公定価格担当室

課長補佐 佐々木 俊哉 氏

本部報告「こども・子育て・保育の今後をみんなで考える」

社会福祉法人 日本保育協会 理事長 吉田 学 氏

講義「地方裁量型認定こども園として特色のある保育活動と施設運営

～秋田の豊かな自然を活かし、地域と一体になって、子どもと家族を支援する～」

特定非営利活動法人 Akita コドモの森 理事長 小玉 朋子 氏

情報交換会（懇親会）

【今後の部会予定】

○第8回

日 時：12月上旬

場 所：WEB 開催

内 容：会員施設に対する調査について

【部からのメッセージ】

日頃より運営研究部の活動に対しご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

10月16日（木）に開催しました園長セミナー（日保協 北海道・東北地区役員研修会）には多数の参加ありがとうございました。今後の事業は会員施設の皆様対象の調査を計画しております。

日々ご多忙のことと存じますがご協力をお願いいたします。

今後とも、運営研究部へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

にかほ市 ひまわり保育園
(運営研究部長 吉川誠治)

広 報 部

【実施した部会】

○第3回

日 時：10月31日（火） 13：30～16：30

場 所：保育協議会 会議室

内 容：『保育あきた』瓦版（12月）の発行について
『保育あきた』（3月）の発行について
その他

○第4回

日 時：12月8日（月） 13：30～16：30

場 所：保育協議会 会議室

内 容：『保育あきた』瓦版（12月）の校正作業
その他

【今後の部会予定】

○第5回

日 時：1月中旬

場 所：WEB 開催

内 容：『保育あきた』の内容・執筆者の選定について
部員の担当割
その他

【部からのメッセージ】

今年度2回目の『保育あきた』瓦版を発行いたします。是非とも職員の皆様にもご覧になっていただければ幸いです。

今後も会員園の皆様にとって有意義な情報発信となるよう部員一同頑張ってまいります。

広報部の活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

由利本荘市 子吉保育園
(広報部長 川嶋 博英)

青年部

【実施した部会】

第3回

日時：9月30日（火）13：30～17：00

場所：保育協議会会議室・WEB 併用

内容：日保協ブロック研修会について、青年部研修会について等

第4回

日時：11月11日（火）14：00～17：00

場所：WEB 開催

内容：全保協での青年部（仮称）組織の立ち上げについて、青年部主催研修会について等

第5回

日時：11月28日（金）13：30～17：00

場所：WEB 開催

内容：青年部主催研修会の最終打ち合わせについて

青年部研修会

日時：12月2日（火）13：30～16：30

場所：遊学舎 会議室

内容：Google フォームの活用（青年部員が講師となってワークショップ型の研修を開催予定）

【今後の予定】

未 定

【部からのメッセージ】

昨年度に実施した「研修内容に関するニーズ調査」について、多くの会員施設よりご意見を頂戴することができました。ご協力ありがとうございました。

回答の中で「ICT に関する研修を…」 「業務効率化について学びたい」という声が多く挙がっていたことを受けて、今年度青年部が主催する研修会として『Google フォームの活用』をテーマにした研修会の企画・開催をすることとしました。

今回の研修会に参加された皆様にとって、日々の業務に少しでも役立てられる内容になったと思っただけであれば幸いです。

これからも会員の皆様からのご意見・ご要望を形にできるような活動を進めていきたいと考えておりますので、今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

横手市 旭保育園
（青年部長 伊藤 昌人）

福利厚生充実による優秀な人材確保と
職員の皆さまに安心して働いていただくために



職員のための 病気とケガのトータルプラン

(業務災害総合保険)

- 特長1** 業務中、通勤途上のケガを職員の人数に関係なく補償します。
- 特長2** 園の職員全員を無記名で補償します。
●パート、アルバイト、派遣職員も補償できます。
- 特長3** 職員の増員・入れ替りも自動的に補償します。
●年間総収入による保険料で、人数の報告・精算などは不要です。
- 特長4** 病気による入院の補償や、がんによる通院の治療費補償も追加できます。
●病気を補償する特約については、事業主、常勤※の法人役員(理事・監事)、職員、常勤※のパート・アルバイトの方が対象となります。
※常勤とは、病気を被った時の直前6か月間における、週あたりの平均労働日数が3日以上、かつ週あたりの平均労働時間が15時間以上に該当する場合をいいます。
- 特長5** 労災事故の賠償金や訴訟時の弁護士費用を最大5億円まで補償できます。
●損害賠償金額の決定や争訟・弁護士費用などの支出にあたっては、事前に弊社の承認が必要です。



*「職務災害トータルプラン」は、「職員のための病気とケガのトータルプラン」に2022年9月1日より名称を変更しました。

お子さまの成長を安心して見守るために

キッズガード

(こども総合保険)

- 特長1** 団体割引適用 約50%割引 (前年2024年度、加入者数5万人以上の割引率)
園が窓口の団体加入制度だから、団体割引・損害率による割引が適用されています。
- 特長2** 24時間補償 ケガによる入院・通院は1日目から補償
ケガによる入院・通院など、園児をとりまく様々なリスクに対応した保障制度です。
- 特長3** ご家族の賠償事故も対象 国内示談交渉サービス付き
個人賠償責任補償は園児とご家族が対象です。
- 特長4** お電話一本でお支払い 簡単支払特急便
ケガによる入院・通院で10万円以下のご請求は、お電話一本で保険金をお支払いします。
※ご利用にあたっては所定の条件があります。



株式会社キッズサポートインシュアランス

大阪府大阪市中央区船場中央3丁目2番8号船場センタービル8号館327号
TEL:06-4708-8815 FAX:06-4708-8858

※この広告は保険商品の特長をご案内したものです。詳細につきましては、パンフレット等をご覧いただくか、弊社までお問い合わせください。

編集後記

2025年も残りわずかとなりました。日本漢字能力検定協会は2025年の世相を表す漢字1字を「熊」と発表しました。

今年は例年になく熊への警戒を強めながらの保育を余儀なくされ、秋の自然がいっぱいワクワクするような日でも園周辺をあちこち歩きまわることのできない現状にもどかしさを感じる毎日でした。私自身これまで一度も遭遇したことがない熊に今年は2度も遭遇し、熊の出没が急増している現状を目の当たりにしました。人里や市街地に頻りに姿を現すようになってしまった熊により、私たちの生活も保育も制限されてしまい、どのように安全確保していったらよいか悩む毎日ですが、今後も引き続き子どもたちの健やかな育ちを支えていくために取り組んでいきたいですね。

今後は感染症の流行しやすい時期になりますので、くれぐれも体調管理に気をつけながら元気に頑張ってもらいましょう。

発行にあたりお忙しい中寄稿いただきました皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。

(M・K)

広報部

担当副会長	岸 大 助	(湯沢市 湯沢こども園)
部 長	川 嶋 博 英	(由利本荘市 子吉保育園)
副部長	佐 川 ひ と み	(秋田市 幼保連携型認定こども園 ふじ)
〃	大 門 ヒ サ 子	(秋田市 こどものくに保育園)
部 員	南 部 芳 道	(横手市 金沢保育園)
〃	鈴 木 直 子	(仙北市 にこにここども園)
〃	菊 池 美 和 子	(藤里町 藤里保育園)
〃	大 澤 陽 子	(美郷町 仙南すこやか園)
〃	高 橋 ひ ろ み	(羽後町 にしもないこども園)